

「橋渡し」業務をシステム化し、専任スタッフの配置で年間**60**件以上の高品質な国際研究集会・セミナー開催を達成！

CONTEXT & CHALLENGE

- 背景1** オーガナイザー（研究者）の業務負担
会場手配、講演者調整、旅程・宿泊手配、広報物作成、参加登録、プログラム編成、当日の運営など、多岐にわたるタスクがオーガナイザー（研究者）にのしかかる
- 背景2** ノウハウの非共有
国際研究集会ごとにオーガナイザーが異なるため、知見が共有されず、ノウハウがリセットされる
- ▶▶▶ 研究者の負担軽減と、高品質な国際研究集会開催の両立をどう実現するか

STRATEGY

専任スタッフの配置とシステム化

メイン1名、補助1名の専任スタッフを配置
イベント支援チームを固定し、ノウハウ集約とシステム化を実現

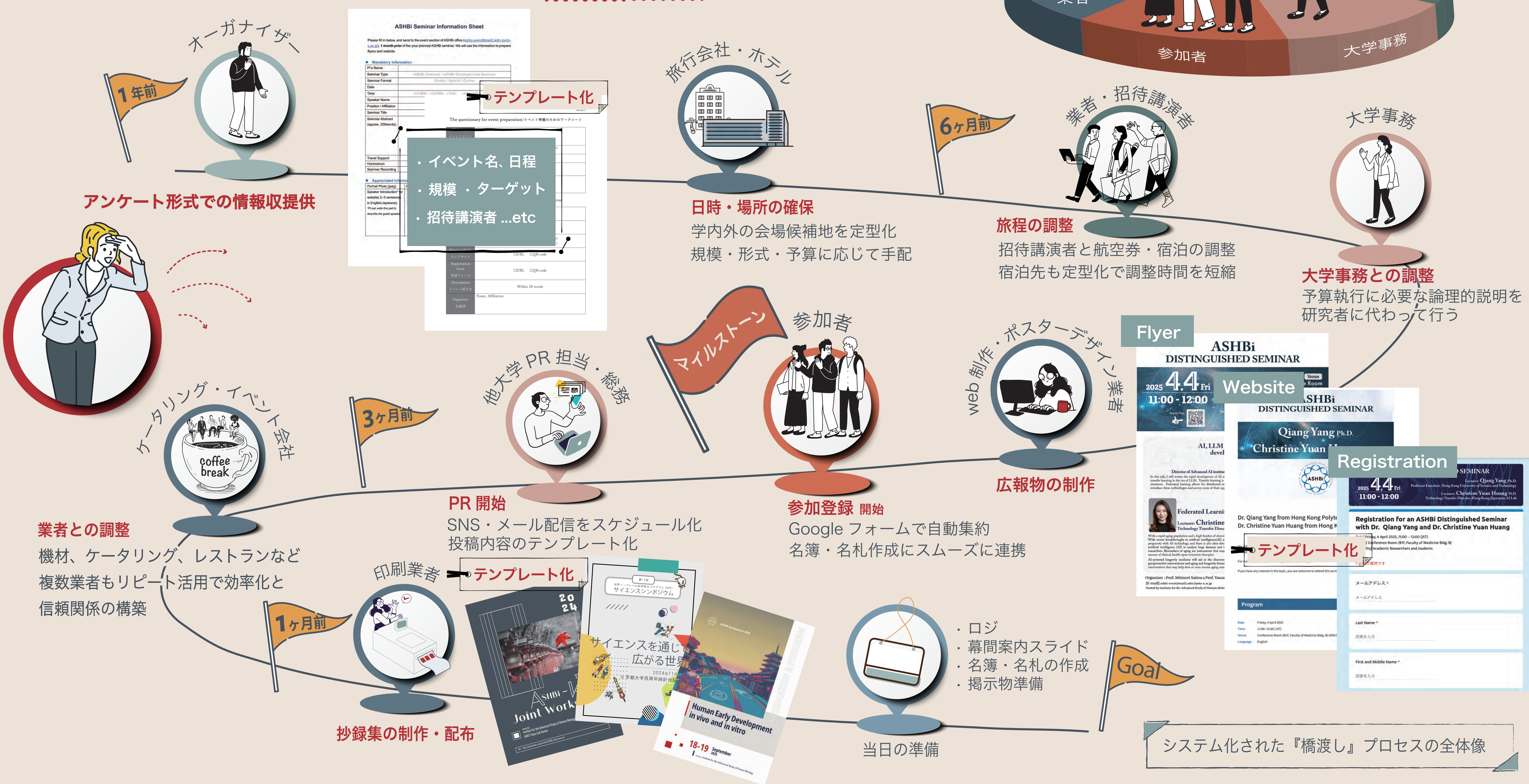
その結果、年間**60**件以上の国際研究集会・海外研究者セミナーの開催支援を少人数体制で実現

SYSTEMATIC APPROACH

システム化された「橋渡し」プロセス

コンセプトを実務へ「いつ」「誰に」「必要な情報を」渡すかを整理

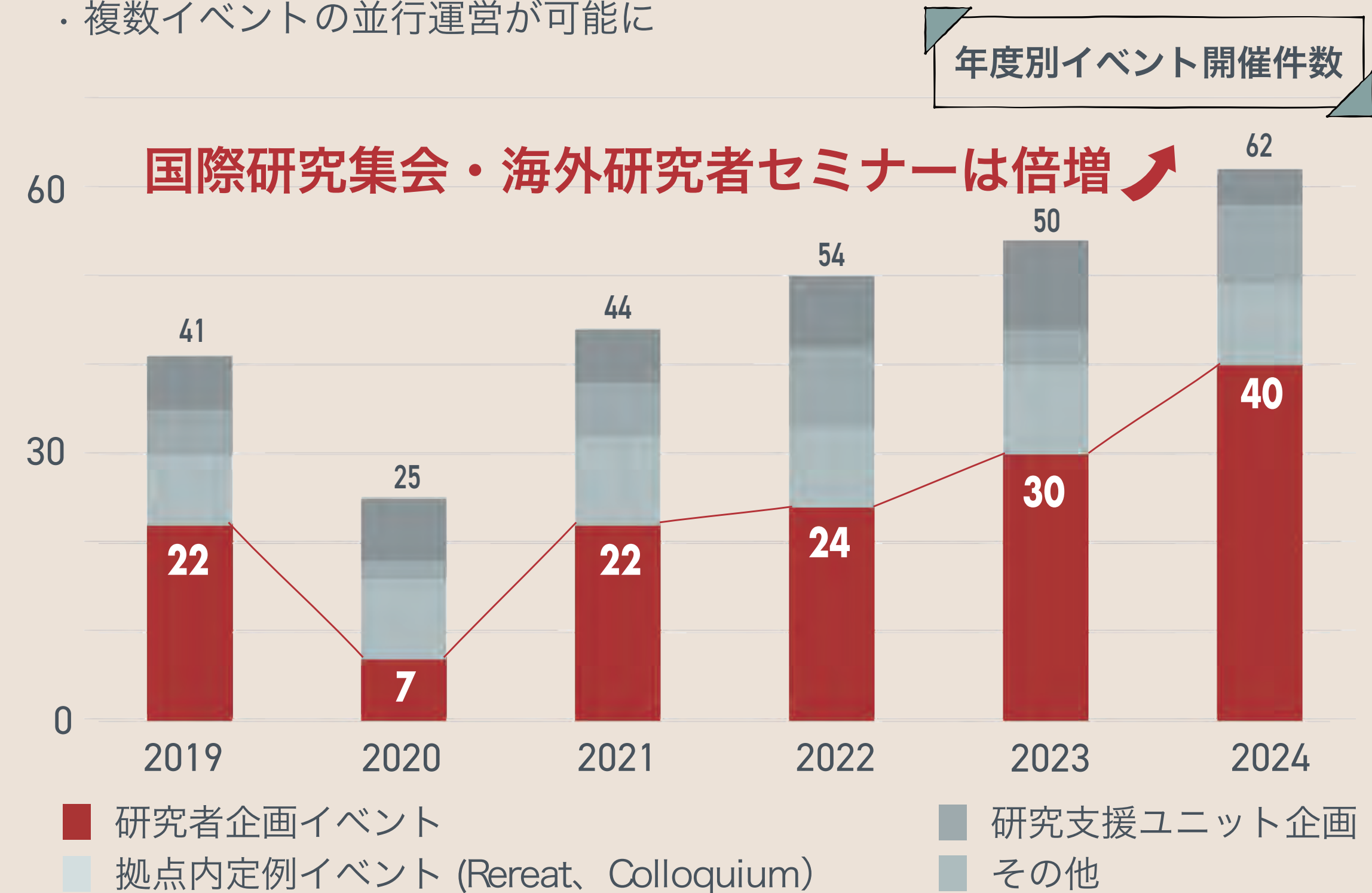
フロー図に落とし込み、主要ステップでの必要な情報、タイミングを可視化
どの規模のイベントにも共通する作業の**テンプレート化**



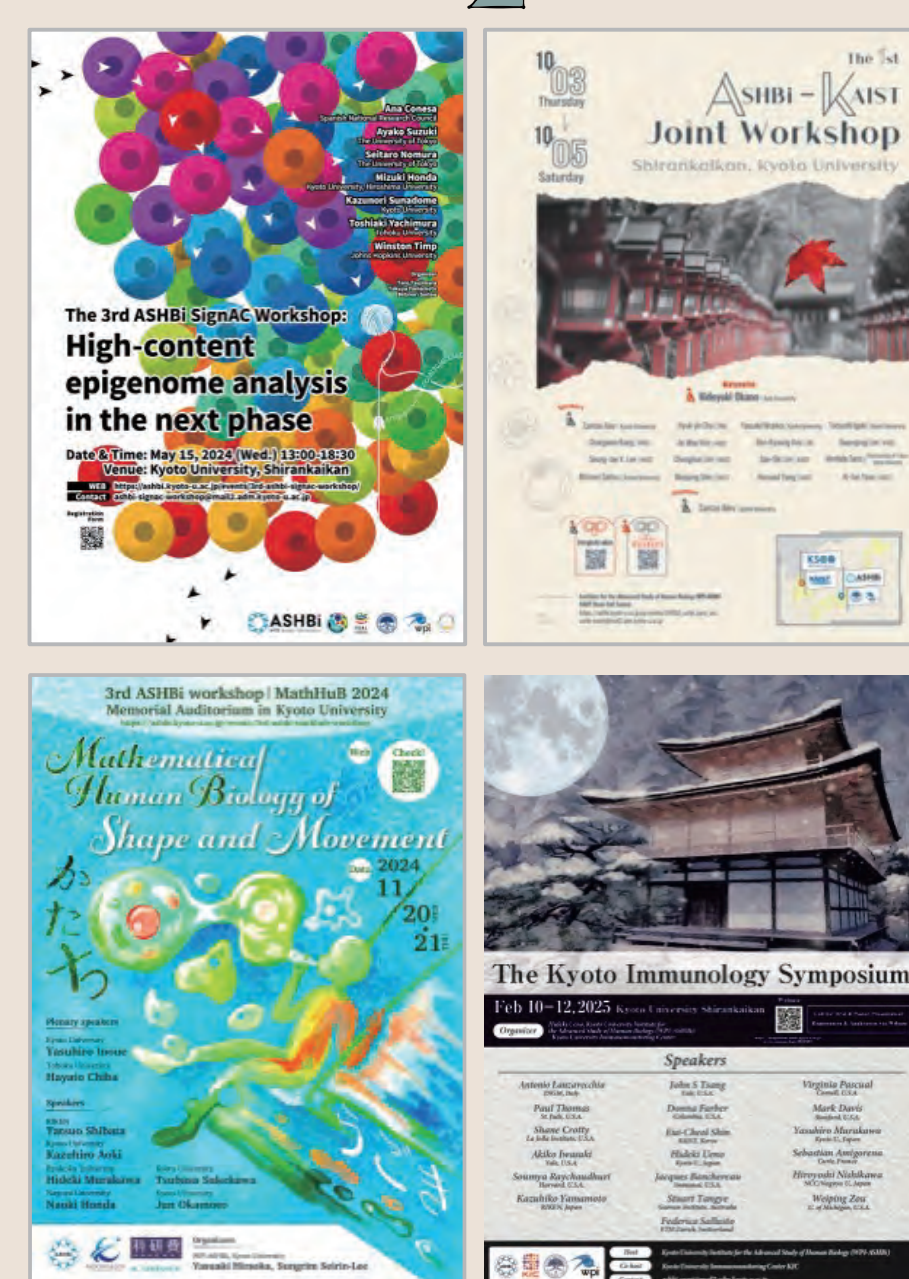
IMPACT

これらシステム化により、

- 年間**60**件以上の大規模研究集会や海外研究者セミナーを少人数体制で支援
- 複数イベントの並行運営が可能に



国際研究集会



約30名を海外から招へい

海外研究者セミナー



16PI × リピート開催 = 36件開催 and more...

ASHBi Retreat



120名規模 毎年開催

NEXT STEP

システム化された「橋渡し」のプロセスを、他組織へ展開
さらなる効率化と支援の質向上
研究者と支援者がそれぞれの専門性を活かし、協働する環境を整備したい

研究者の負担大幅軽減 & 質的担保により、依頼の**リピート率も着実に向上**